

略○中 又古はたをりめといひしは、今云きりくす也、小兒籠にやしなふもの也。

竈馬いと。京にてくろ。伊勢及四國にてかまご尾張にてかまぎりす遠江にてかんなご。西國にてくろつ。又いひご近江にてくろと云、これ古こほろぎといひし物也、今いふこほろぎの種類にして、小なる物也、竈のあたりにすむ。

莎鷄はたおりむし。伊勢にてやまぎすと云、近江にてうりすと云、畿内にて小兒きりくす。云、東國にてきりくす。又ぎつすと云、又ぎつちよなど云、其こゑのぎいと鳴くは、はたおるまねきの音、ちよんと鳴くは、箴の音に似たりとて、いにしへはたおりめとよびしも、今きりくすとの名の變じたる也。

〔和漢三才圖會五十三化生蟲三竈馬イト 竈雞 古云伊止。今云伊止之。略○中

按竈雞似促織コウロギ而小色亦淡、身圍而足長、秋夜鳴聲似蚯蚓、而細小最寂寥、

莎雞 絡緯 梭雞 紡絲 爾雅翼 木利岐里須。略○中

按莎雞青色者多、褐色者少、蓋褐黒黄色似麻油、故俗名油莎雞。阿不聲最亮清、爲珍養之樊中、用甜瓜、李或餵沙糖水、冬亦能防寒、則經數年、其聲如言木里岐里須、故名之、一二聲而如鼓舌、雌肥大善鳴、一種青色而尻有刺、似帶劍者、俗呼曰多知。大刀訓多知之謂乎、晝不鳴、夜鳴。略○中

蟋蟀 蜚 蛩 同 促織 蜻蛉 趨織 古保呂木。略○中

詩豳風曰、五月斯螽動股、六月莎雞振羽、七月在野、八月在宇、九月在戶、十月蟋蟀入我牀下、

朱子註曰、斯螽、莎雞、蟋蟀、一物隨時變化而異其名、倣玄衍義曰、斯螽蝗也、莎雞促織也、蟋蟀蛩也、自是三物、安得謂之隨時變化而異其名、朱註此一處可改之、

按倣之說是也、然莎雞以爲促織者、非也。略○中

蟋蟀 斯螽 蟋蟀 波太於里。略○中